

いってよいくらいあり、楽に直登する。

小滝帯をぬけると、しばらく平凡な登りが続く。やがて沢が明るくなる。そして沢の兩岸はガレ場。ここまでくるともう沢もおしまいである。1 mの小滝を越えると、水が急に冷たく感じられるようになり、大きなミスバショウの群落が出現し、すぐに赤安田代に飛び出す。

赤安田代では、ニッコウキスゲが盛りであった。山ふところの静かな田代を一面に染めている。登山道がないだけに、訪れる人としてないが、実にすばらしい所。沢が平凡であったことなど、忘れ果ててしまう。願わくば、いつまでもこの姿のままできてほしい。そんな思いを込めて、じっとみとれた。(記)

[タイム] 七入(6:50)→林道終点(7:40, 8:05)→黒溶沢出合(9:05)→赤安沢出合(9:20)→赤安小沢出合(9:30)→トヤマ沢出合(10:20)→赤安田代(11:35)

### 赤安小沢

1988年7月30日

L<sub>1</sub>

赤安小沢の下降は、赤安田代の横断から始まった。トヤマ沢源頭から田代を横切った所が、赤安小沢の源頭である。11:50下降開始。

ところで、この赤安小沢は、全く平凡な沢であった。上流部は急な下りとなったが、滝はかからず。中流部は平凡。わずかに赤安沢も近くなった頃に小滝群が出現し、ちょっと緊張しただけ。でも、そんなことなどまったく気にならないほど、赤安田代の印象が強烈で、沢の平凡さと比較しても充分におつりがきた。

最後の4 m滝は、右岸ブッシュ帯を下る。登りなら楽に越えられる滝である。13:50、赤安沢出合に到着して、2時間の下降を終了した。(記)

[タイム] 赤安田代(11:50)→赤安沢出合(13:50)→実川本流(14:00)→黒溶沢出合(14:15, 15:30)→林道終点(16:15, 17:00)→七入(17:45)

### 黒溶沢右俣

1988年7月30日

L<sub>1</sub>

天気晴。簡単な朝食を済ませ、車を実川林道入口において出発する。林道はいつもゲートがしまっているの、車は入れない。装備を点検して歩き始める。林道は矢櫃沢より少し先まで続いている。ただし、矢櫃沢橋など、まだ工事中であ

